

科目名	国際観光論 B International Tourism B						
科目担当者	墨 昌芳 SUMI Masayoshi						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 専門科目]					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	人口減少・少子高齢化が進むわが国において、観光の果たすべき役割、特に海外より日本に観光客を迎え入れるインバウンド・ツーリズムが注目されています。本講義では、ビジット・ジャパン・キャンペーンを含めた日本のインバウンド政策、九州・宮崎の誘致政策について、その現状と今後の課題等について学習します。また、インバウンド需要に対応する宿泊業者や輸送業者が直面している現況や課題、地域が直面しているオーバーツーリズムの問題等も学習します。受講者には日本のインバウンド政策が抱えている課題を観光マーケティングシートを通じて検証してもらいます。そして、検証された結果に関して、グループ発表を行い、意見の集約を図っていきます。						
授業の到達目標	①日本、及び九州・宮崎のインバウンド政策を理解する。 ②インバウンド産業の取り組み、直面している課題を理解する。 ③観光に関する知識を身に付け、観光が抱える問題に、自分自身で対策を考えることが出来る。						
授業計画・内容	1	ガイダンス：観光を学ぶ意味、観光の重要性、講義の概要					
	2	訪日外国人旅行者誘致の歴史 (1)：海外旅行自由化とインバウンド					
	3	訪日外国人旅行者誘致の歴史 (2)：ビジット・ジャパン・キャンペーンに関して					
	4	訪日外国人旅行者誘致の歴史 (3)：国・地域別のマーケット特性に関して					
	5	各自自治体による訪日外国人誘致活動 (1)：九州全体の取り組み					
	6	各自自治体による訪日外国人誘致活動 (2)：宮崎県の取り組み					
	7	インバウンド需要の拡大と人材育成の取り組み					
	8	インバウンド関連産業をめぐる現況と課題 (1)：旅行業					
	9	インバウンド関連産業をめぐる現況と課題 (2)：宿泊業・運輸業					
	10	インバウンド関連産業をめぐる現況と課題 (3)：観光施設					
	11	インバウンド政策に関する分析シートの作成、グループ発表の準備					
	12	グループ発表 (1)：前半のグループによるプレゼン・ディスカッション					
	13	グループ発表 (2)：後半のグループによるプレゼン・ディスカッション					
	14	オーバーツーリズムの問題 (1)：主要国の現状					
	15	オーバーツーリズムの問題 (2)：日本の現状					
授業外学修 (事前学修)	発表のための準備を行う (15時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	授業内容について分からない点などを復習し、不明点を調べておく (毎週1時間程度、合計15時間) 課題を作成する (30時間程度)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	定期試験				50%	①、②、③	
	課題の提出				30%	①、②、③	
	授業中の小テスト				20%	①、②、③	
成績評価基準	秀：(評点90点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：(評点80点~89点) 到達目標を高い水準で達成している場合 良：(評点70点~79点) 到達目標を一定の水準で達成している場合 可：(評点60点~69点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：(評点60点未満) 到達目標に達していない場合						
教科書	教科書は特に使用しない。教材を必要に応じて(ほぼ毎週)配布する。また、必要に応じて新聞や雑誌の記事、あるいは論文等を配布する。						
参考文献	国土交通省観光庁『令和5年版 観光白書』日経印刷 (上記の観光白書は、国土交通省のホームページ上から全文無料で入手可能) 山下晋司『観光学キーワード』有斐閣 中尾清・浦達雄『観光学入門』晃洋書房						
その他	<どのような学生の受講が望ましいのか> 観光に興味がある学生 観光産業に就職を考えている学生						